

P_65 人文・社会科学系研究支援プログラム

神谷俊郎、稲石奈津子、森下明子、天野絵里子（京都大学 学術研究支援室）

人社系の課題

京大人社系の研究力
(実績、価値、蓄積資源)が
学内外・国内外に広く
知られていない

基盤的要因

各分野の特徴を反映し、
研究力を分かりやすく
伝えるための環境と
方法の整備が必要

課題解決に向けた取組

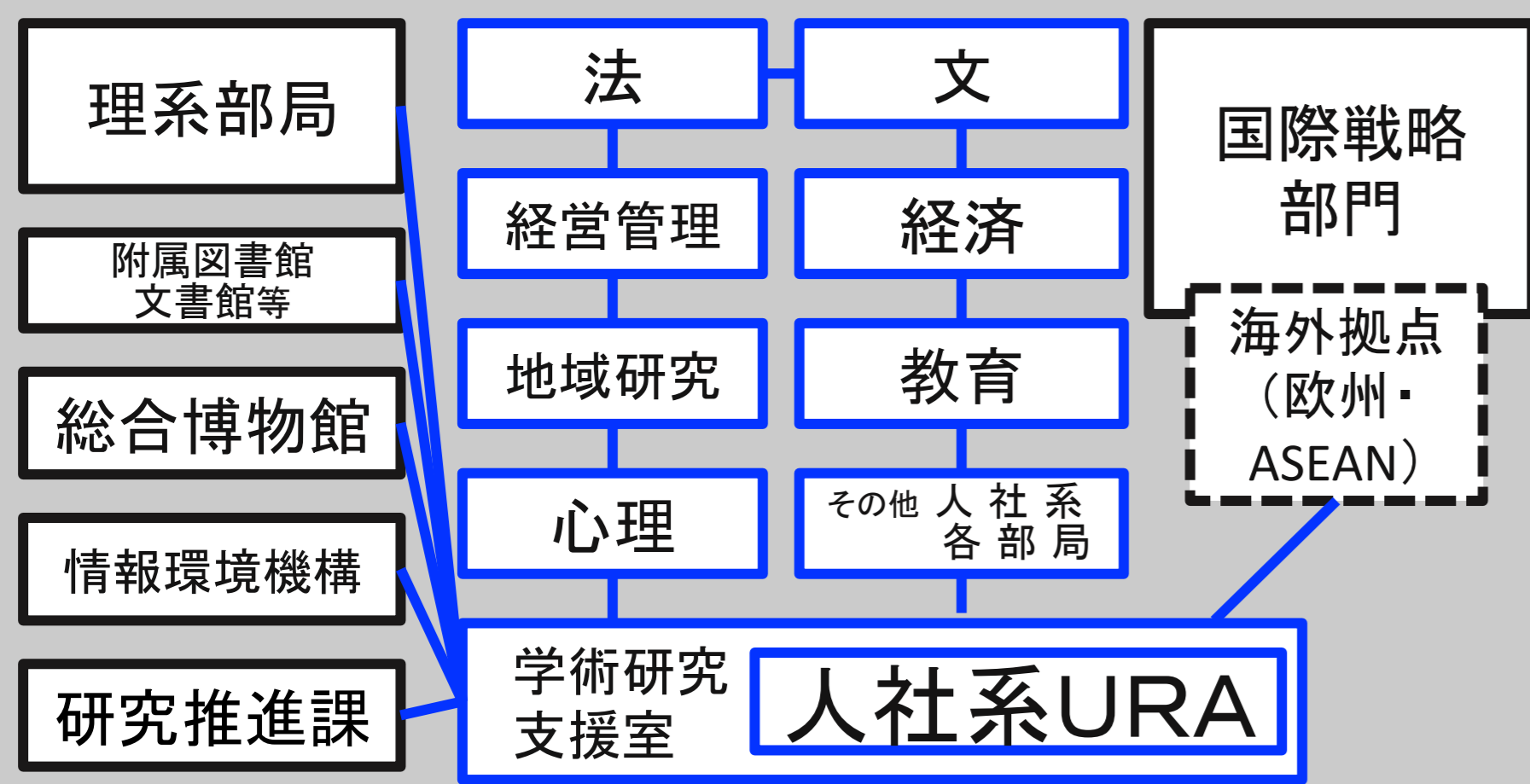
学内の人社系の研究環境の改善 および
人社系の研究力の可視化に取り組む

担当URA

11名 (人社系担当+ICT担当+国際系担当)
+ 他大学のURA組織とも連携

3つのアプローチ

URAをハブとした 組織間連携による研究基盤整備



個別研究者・部局に対するプレ& ポストアワード支援

- ・ファンド情報提供・説明会開催
- ・プロジェクト申請支援
- ・プロジェクト運営支援
- ・シンポジウム・国際会議等開催支援
- ・イベント開催支援
- ・英語(外国人)研究者支援



学外・国外機関との連携

- ・人社系に特化した研究支援者ネットワークの構築と情報交換
- ・海外機関の研究支援者との連携 (国際シンポ支援、MOU締結支援など)
- ・海外拠点 (ASEAN・欧州・アフリカ[予定]) を通じた研究者ネットワーク構築
- ・事務部の海外(英語)対応支援

3つの重点取り組み

① 資源整備・成果発信プロジェクト

学内の研究資源と研究成果を広く発信するために

- ・学内資源の保存&連携&利活用のプラットフォーム構築支援
- ・研究成果発信の新しいビジネスモデル構築に向けた情報収集 (出版、翻訳助成など)
- ・新刊図書紹介SNSの構築など

② 外部資金獲得プロジェクト

研究のスケールアップを目指す研究者のために

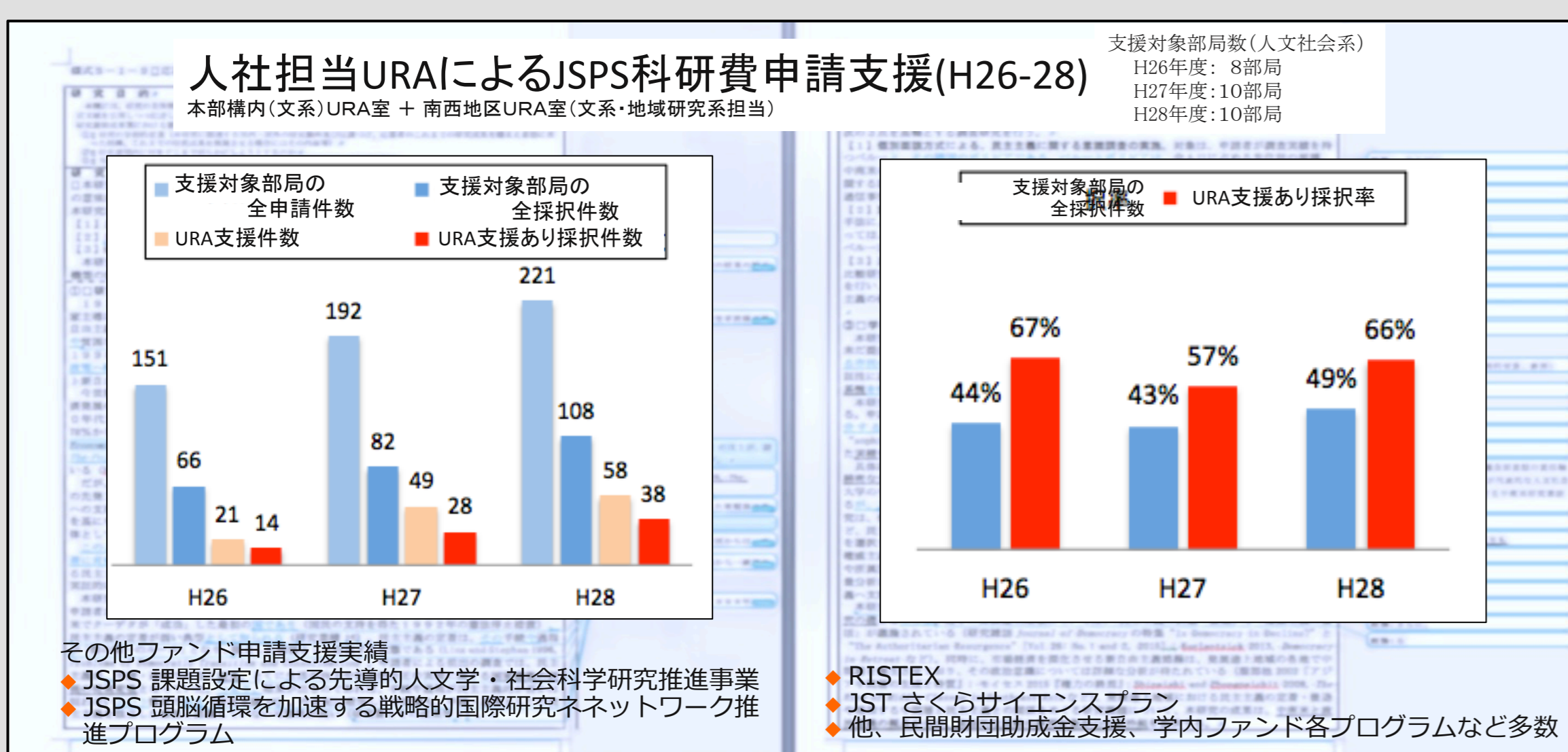
- ・公募型資金情報サイト「鎗」の充実と代行登録
- ・人社系ファンドの学内説明会開催
- ・大型、国際、学際、社会課題解決型のチーム形成支援など

③ 研究力の可視化プロジェクト

数値で表せない人社系の実績を伝えるために

- ・京大版研究実績レポートのフォーマット検討および作成
- ・定量・定性データ等を用いた分野貢献度の指標検討など

京都大学の人社系研究支援モデルの提示を通じた 日本の人社系分野の国内外プレゼンス向上への貢献



世界的に卓越した知の創造の
組織・国を超えた共有と協働を
サポート

人社系の多様な研究資源や成果出版物の 国内外広報

— 書籍、論文、翻訳、翻刻、目録、教科書、
判例解説、映像資源など —

- シンポ・国際会議等開催支援実績
- ◆ PNC/じんもんごん2013
 - ◆ 第8回世界アフリカ言語学会2015
 - ◆ 日本デジタル・ヒューマニティーズ学会2015
 - ◆ 京都大学生命倫理国際シンポジウム@プリストル大学 etc.

- イベント開催支援実績
- ◆ 「スーチャーさんと京都」講演会
 - ◆ 「ビジュアルコミュニケーションプロジェクト」上映会
 - ◆ 「京都大学アカデミックデイ」 etc.

人社系研究担当URAによる 個別ニーズに応じた支援



人社系の特徴を反映した 研究力の可視化に向けて

- 「人文・社会科学系研究推進フォーラム」の企画・開催
- ・ 2014年度 第1回「人文・社会科学系研究推進に必要な共通基盤整備を考えよう」
@大阪大学(大阪大学・京都大学・筑波大学、2014年12月)
 - ・ 2015年度 第2回「人文・社会科学系支援の三手先を考える」
@つくば国際会議場(筑波大学、大阪大学、京都大学、早稲田大学)
- URAシンポジウム、RA研究会、RA協議会における
人文・社会科学系セッションの企画、発表
- ・ 「人社系支援のあり方」
第5回RA研究会セッション(京都大学・大阪大学・東京大学、2013年11月)
 - ・ 「人社系分野への研究支援と研究評価 ～グッドプラクティスを探る～」
第6回RA研究会セッション(京都大学・筑波大学・大阪大学、2014年9月)
 - ・ 「人社系の研究ってどうやるの？」
RA協議会第1回学際大会セッション(筑波大学・大阪大学・京都大学、2015年9月)